（毎月10日発行）

広報 かわにし

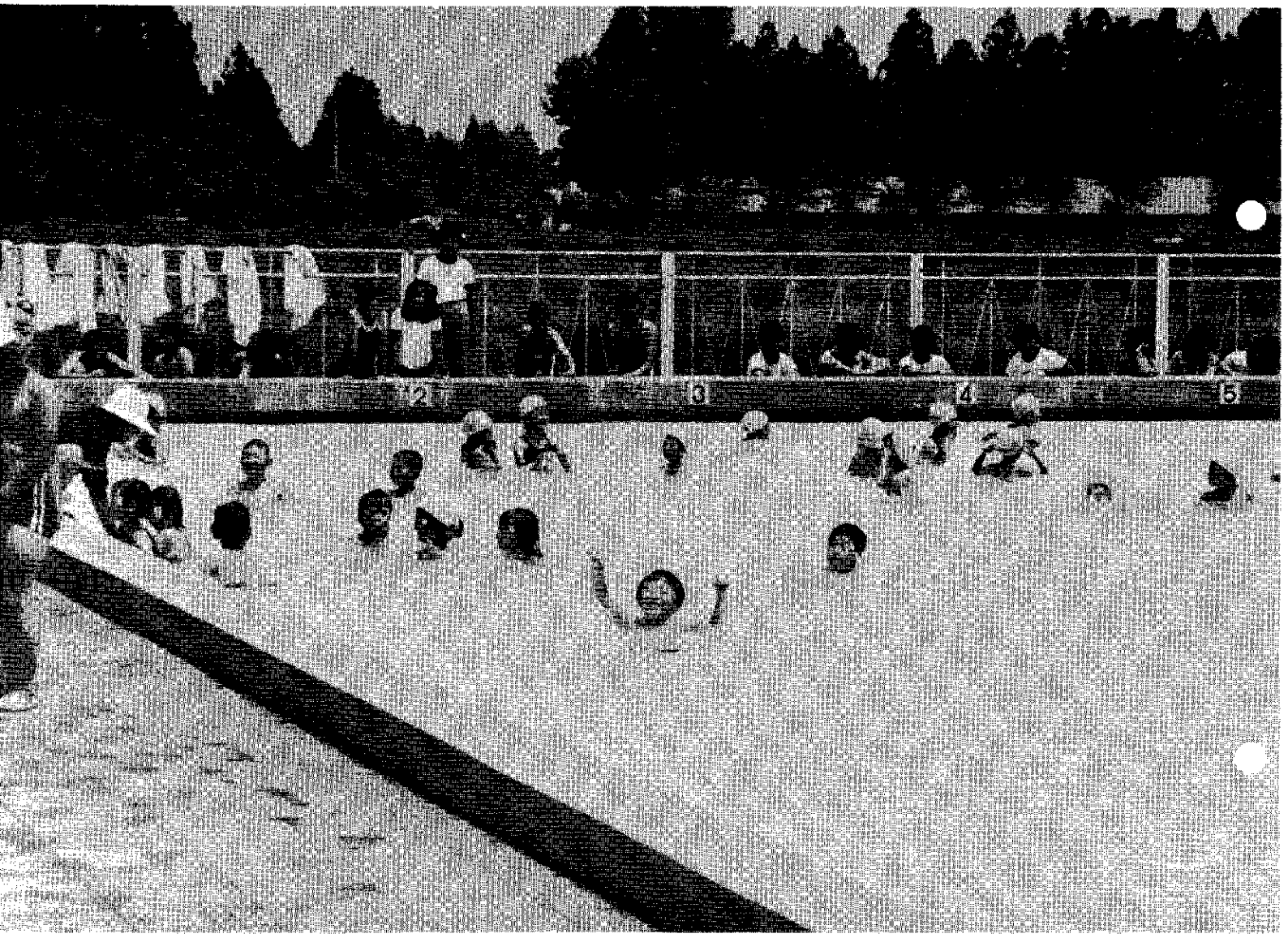
平成2年 7/10 No.383

〒948－01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地（TEL 0257－68－3111 FAX 0257－68－3828）
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

人口の動き
―7月1日現在―

男	4,487	(+9)
女	4,504	(−1)
計	8,991	(+8)
世帯数	2,234	(0)

（ ）は前月比較



ひと足お先に“夏夏夏”

6月6日、立夏から1カ月経過したとはいえ、肌寒い風が吹くなか、上野小学校（児童数108人）では、町内小・中学校のトップをきって、プール開きをしました。

6年生の押木良輔君が、「ことしは上野小が町内親善水泳大会の会場なので、よい成績を残したい」と児童を代表してあいさつしました。6年生が模範の泳ぎを披露したあと、1年生から順に5分ていどの初泳ぎを楽しみました。

休日救急医

7月15日 池田医院（本町西）☎52－2581
22日 中条病院（中条）☎57－3018
29日 至誠堂医院（西浦町）☎52－3276
8月 5日 第二藤巻医院（上野）☎68－2018
12日 大坪医院（四日町）☎57－6100

議会報告

六月十五日から七月七日まで、二十三日間の会期で第五回町議会定例会が開かれました。七人の議員による一般質問のあと、立成一年産米の政府買い入れ価格の請願ほか一件が採択され、一般会計補正予算ほか五件の特別会計補正予算が原案どおり可決されました。また、固定資産評価審査会委員野口・滋野定良さんが選任されました。最終日、総合センター設置及び管理に関する条例の一部改正と、千手小大規模改造工事ほか一件の工事請負契約が原案どおり可決され、農業委員の推薦がありました。一般質問の概要を中心にお知らせします。（質問順に掲載）

土曜閉庁に不安はないか

柳藤作 議員

❶土曜閉庁によって、職員の超過勤務の増加や住民サービス低下の心配はないか。また、今までどおり行う業務の体制は。

❷職員の年次休暇の考えと、消化率について伺いたい。

南雲 町長

①土曜閉庁できるのは、役場本庁を中心とした管理部門が対象。住民サービスを低下させないため、直接住民生活に関係する業務は、休日であっても対応できるように実施したい。

職員の勤務時間では、これまでの四週六休と全く同じであり、開庁方式から閉庁方式に切り替えることによって、特別の予算あるいは定員の面に関して問題は生じないと思っている。

閉庁にならない部門は、代休制度を法的に確立し、職員の均衡を欠かないよう活用を図っていかなければならないと考えている。

②社会情勢に即応できるように効率的な定員管理に努め、日々変化する外的環境、行政需要に的確に対応してまいりたい。

年次休暇の消化状況については、元年度の職員全体の平均で、一人当たり十三日であり、ほぼ全国並み（十一日）の水準である。

スピード時代への対応は

水品忠雄 議員

❶JR新幹線などの駐車場確保に向けて、次のことを聞きたい。

(1) 北越北線開通に備えて、十日町に町民が利用できる駐車場用地を取得できないか。

(2) 湯沢町に、借地を含めて町民が利用できる駐車場用地を取得できないか。

(3) 湯沢駅コンコース下の有料駐車場を、町で月決め契約で借りられないか。

(4) 浦佐駅前の町有駐車場の活用状況は。

南雲 町長

①(1) 町は、北越急行㈱の株主の一員であり、この路線の利用は積極的に考えなければならない立場にある。しかし、至近距離にあるため、その必要があるかどうか、十分検討したい。

(2) 行政区域外に町の施設を保有・造成することは、不特定数の利用を想定するということで、管理面でも複雑な面が想定される。近隣市町村の現状を踏まえて、おくすることなく対応したい。

(3) 早急に調査して、前向きに対応したい。

(4) 当初の期待に反して、ほとんど利用されていない状況である。十日町市、高柳町と協議しているが、これといった妙案もなく、今日に至っているのが現実の姿である。

❷日本コントロールシステムの進出計画について内容を聞きたい。また、議会も会社から生の声を聞く機会が設けられないか。

②本社は渋谷区恵比寿にあり、画像処理、伝送通信制御、計測制御などの分野を手掛けている。

川西町には、直属の事業所として「川西分室」をスタートさせることを当面の目標に、連絡を取り合っている。

すでに、三人が本社で研修中であり、五人のスタッフがそろった時点でスタートさせたい。その時期は、平成四年度ということで努力中である。

議会との話し合いも、「機会があればお伺いしたい」という、社長の話があったことを伝えておく。

これでいいのか町の観光

上村広治 議員

❶川西町観光事業のこれからの考え方は

(1) 町の観光地も、宣伝や施設整備をすれば集客できる。越後善光寺の計画と合わせて観光地化することはできないか。

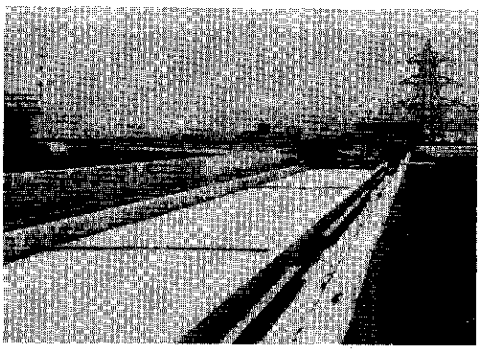
(2) 観光協会の機能拡大と、観光地の施設整備強化。観光業者との提携の考えは。

(3) 川西まつりとして、各集落や地区のまつりを集約した一大イベントを実行するプランはないか。

(4) これらの実施に、過疎地域活性化特別措置法の活用は図れないか。

❷(1) 老人福祉対策拡充のため、老人集合住宅の整備、老人ホームの設置など、老人福祉施設整備が図れないか。

(2) これらの施設整備に、高齢者福祉推進資金を増額して活用できないか。



平成7年開通予定の北越北線
（6.14 十日町市新座付近）

南　雲　町長

①今年度は、総合開発計画の次期、中期計画後半を策定する準備の年である。観光開発も、その中の重要な分野である。

基本的な考え方として、公的観光レクリエーション地区、公的観光レクリエーション施設の整備の動向にならって町の観光、物産の振興に努めていくように配慮したい。

(1) 受け入れ可能な条件整備を、日下の課題として取り組んでおり、施設整備と並行した宣伝活動にも力を入れることのできる基盤整備に努めたい。

越後善光寺の計画と合わせた観光地化の問題は、環境調査など、検討課題も残っている。しばらくの時間をいただきたい。

(2) 観光協会は、組織の活性化という討議もなされており、町民の観光意識の啓発、観光関係者の資質の向上に留意し、機能拡大なども含めて研究したい。

観光業者との提携については、官民いずれの主導による観光開発が望ましいかというテーマもある。検討課題として受けとめさせていただきたい。

(3) 「雪祭り町民総ぐるみ参加」という現実的な問題も出ている。行政からのお仕着せでない、住民が真に賛同でき、参加できるものとして創設していくように努めたい。

(4) 真に地域活性化のための社会資本整備とされる観光、又はレクリエーション施設事業であれば、ほとんどがこの法律に基づく過疎債の適用を受けることができる。

このため、地域を生かした観光関係事業については、過疎計画策定の段階で、十分考慮して、慎重に取り組みたい。

②(1) 高齢期を充実して生きるためには、健康の保持、老後の経済的設計安定が不可欠である。このことから、高齢期を展望した人生設計を持ち、実践することが重要である。

政府が、高齢者保健福祉推進十カ年戦略を示したことにより、町も保健、医療、福祉を三本柱として、国の施策を見極めながら取り組んでいかなければならないと認識している。

町の条件整備、国の施策を見ながら、総合開発計画の後期五カ年計画の中で、十分検討していきたいと思っている。

(2) 財政状況を見たうえで、今後の対応によっては充実強化していきたい。

第四回川西雪まつりの人間ばん馬大会から（3・4）

気になる処理場のゆくえ

田口直人　議員

❶一般廃棄物最終処分場の誘致の考え方は

(1) 誘致問題は、行政が十分検討した上で住民側におろすべきだと思う。投げかけ方に問題はなかったか。

(2) 処理場が及ぼす、下流地域への対処はどうするのか。

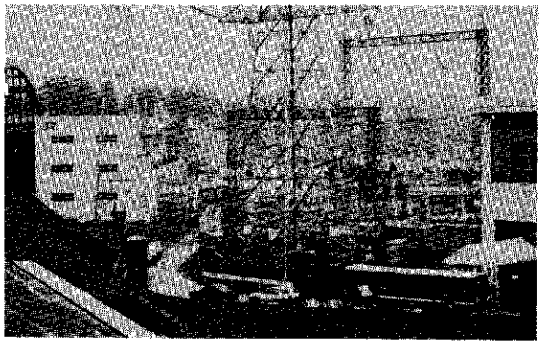
(3) 投資額や活性化に結びつく事業だからといって、何でも飛びつくのはどうか。

❷JR水路トンネル農業用水の減水補償の恒久対策はいかに

(1) 清津ダム乗りで暫定水利権を取得しておけば、町総合水利用計画の恒久対策の解決ができたのではないか。

(2) 農業用水や流雪溝用水の不足は、どのような手段で手当てするつもりか。

(3) 昨年末のJR信工とのトップ会談以来、住民が安心できるような水問題に関する確約があったのか。



通水が行われた小千谷第二発電所竣工式（6.20）

南　雲　町長

①一般廃棄物、産業廃棄物の区別なく、その処分場がくるということになれば、地域住民の中に強いアレルギー反応が起こることは、強く認識している。

自分のごみを処理するだけでも大変なのに、外のごみなどもってのほかだ、これがお互いの本音であろうと思う。

(1) 地域住民の方々の統一された意志を行政で取り上げるか、行政側から窓口になって地域の意志を統一していくか、それぞれ問題の個々について、当事者が選択すべきものであると思う。

この度のものは、業者がまず地域関係者と話し合いをする方法を実行したわけであり、この点については特に問題はないと思っている。

行政が物事の判断能力を失った、喪失していて地域住民にゆだねた、ということではない。

(2) 内容が内容だけに、町内はもちろん、渋海川下流対策もあり、大変な問題だ、こういうお答えをしてある。現在でもその気持ちに変わりがない。

(3) 町としても、大きな将来展望の中で、霧谷処理場問題も考え合わせ、地域の方、議会においても十分協議の場を設定していただきたいと考えている。

②去る十二月二十七日、増本所長との間で確認された事項は、一月十七日開催の町議会臨時会終了後の全員協議会で報告申し上げたとおりである。

一、横坑湧水などによって補償し、不足水量はJRが責任をもって対処する。一、各横坑に全量揚水可能な施設をセットし、必要に応じダムなどを設置して使用変動に備える。二、平成二年八月ころまで調査を継続して、被害面積、必要水量の把握に務める。四、基本的には、これまで応急対策で対応したものは、恒久対策を講じる。

基本的な事項について筋道はできていると受けとめているが、六月十一日、十日町市に対する

左岸地区の回答が行われた。川西分についても、年内に確実な提示が行われるであろうと思う。JRの提示を待つばかりでなく、こちらからも対応する必要はあると感じている。

(1)・(2) 清津ダムは利水ダムである。利用する水の量によってダムの建設費にも負担があるということを理解いただきたい。

清津ダムから放流した水を取水して、農業用水と、克雪用水に利用しようとした場合、コストがあまりにも高すぎる。

それよりも、五つのダムを利用して、集中制御などのコントロールをやりながら、有効に利用する方がさらにベターである。

また、清津ダムについては、実測調査が開始されただけであり、現在の利水の持ち込みがこれで終わりということでもないようである。話によってはこれからでも遅くない、こういう返答もいただいている。

(3) 大きな骨になるような、取り立てて申し上げるべきものはなかった。

並木ロードの計画は

高橋　重　議員

❶山林資源保護の看板設置数と、監視員制度活用状況の成果を聞きたい。

❷JR水路トンネルによる千手横坑上部の被害地に対する応急手当のまずさ、不誠実さを感じているが、その状況について承知しているか。

❸ふるさと創生事業の十キロ並木ロードの計画の具体的なものを伺いたい。

南　雲　町長

① 入山規制をした看板の設置数は十六カ所である。

森林資源の保護はもとより、タバコの火の始末、ごみや空き缶の不法投棄などについて注意を促し、協力を呼び掛けるかたちで実施しているところである。

入山者の多くは、山菜を採取しているのが目立つ。スコップなどの農具を携えて、ヤマユリの球根やツツジを根こそぎ掘り起こしている者も見かけられたという報告も受けている。

相手が面識のある方、見知らぬ方、それなりに巡視員に苦労があるようであり、根気の必要な仕事とご賢察をいただきたい。

② **建設課長**　原則的に、被害が発生あるいは増大・拡大したときは、申し出てもらっている。通報のあったものについては、現地を確認したうえで、JR共々見聞のうえ、被害とみなされるものについては応急対策を講ずるということで実施してきたところである。

応急対策が恒久対策の一つの基準となることも考えられるので、不十分な点があったら通報いただいて、JRと立ち会いで再検討していきたい。

③ 林道の全幅四メートルの中には、道路以外のものを設置できないこと。道路敷から離した植栽であっても分収造林地の関係で、対応が大変難しくなることなどがあり、単年度以降に計画を変更しなければならないという心配もしている。

ふるさと創生委員会では、再考を要するという意見もちょうだいしており、今後、諸議会などに図って再検討をしなければならないと考えている。

町外の入山者に注意を促す巡視員（6.24）

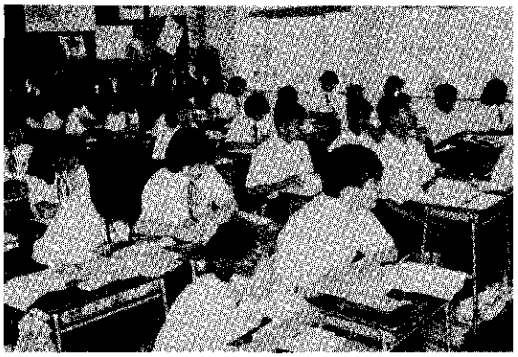
なぜ男子が先の出席簿か

清水　進　議員

現在の男子が先の出席簿により、男女差別意識が生まれる可能性があるとしたら、子供たちにとっては不幸なことである。これを是正する考えはないか。

石沢教育長　男・女の順で区別されるようなら、女子の名前を先に載せてはどうか。中学校は、教科によって男子・女子専門の教科もあるので、混合の出席簿では処理しにくくなるなど、問題もあるようである。

男女の差をなくするということは、教育の立場だけに限って検討されるべきものではなく、大きな見地から判断されるべきである。



席順はどういう順序（6.22 川西中）

養豚団地の移転に助成を

北村公男　議員

地域づくり推進事業資金を活用して、養豚団地移転の際に助成できないか。

南　雲　町長

この事業は、地域主導の地域づくりの一層の推進を図るというものであり、今年度から三カ年間の事業を策定し、県に提出することが義務付けられているところである。

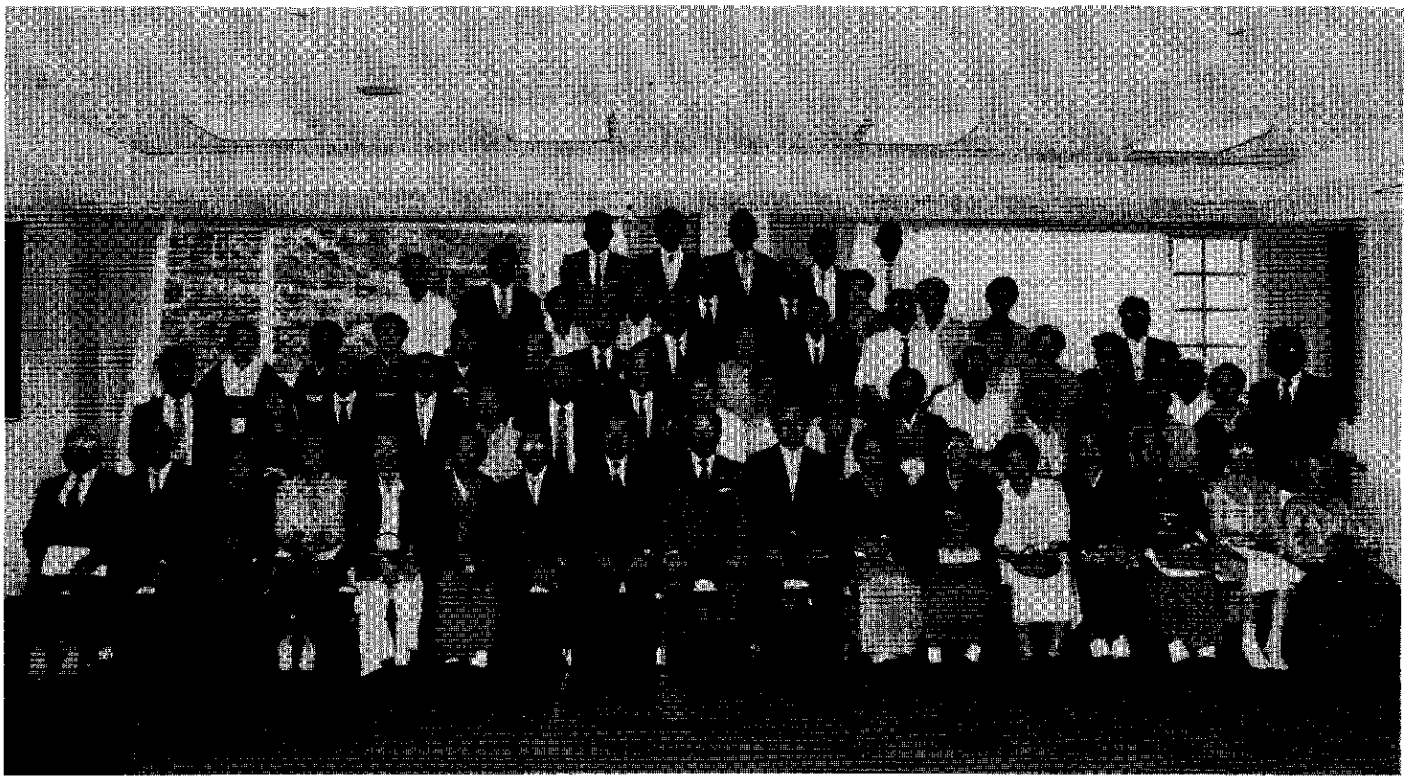
しかし、具体的な内容が示されておらず、考え方として、直接にふるさと創生事業に関連する必要はないが、ふるさと創生事業から派生した事業が好ましいとされているようである。

このようなことから、特定地域のみの受益でなく、広く一般町民の受益を対象とした事業が基本になると考えられる。

早急に県の指導、あるいは、ふるさと創生推進委員会の意見などを伺いながら検討していきたい。

喜寿の祝

6月26日
松葉荘



ことし、喜寿のお祝いを迎えた方は、大正二年四月二日から、大正三年四月一日までに生まれた満七十七歳の七十二人が対象です。当日は、五十九人が出席しました。

〈町内順に掲載・敬称略〉

千手地区　二十六人

山野田　北村　直次
〃　田村才一郎
発電所通り東　井口　武次
〃　高山　ツハ
〃　田中　文
栄町　江村　ノブ
東善寺　清水　定一
上町　北村　テル
中央町　小野塚政市
田中町　木村　鉄雄
神社町　田辺　菊井
〃　春日　スギ
学校町　北村　カツ
木島　佐藤　イエ
伊友　星名　一二
高原田　高橋　シヅ
〃　小野塚ます
〃　高橋　正雄
坪山　中村　正隆
〃　中村　初見
〃　中村　タマ
霜条　蔵品　石松
〃　大海　正夫
〃　金山　睦
〃　大海　フサ
〃　星名　一正

上野地区　十四人

上野　星名　リウ
新町新田　渡貫　セキ
下平新田　清水　広治
〃　上村　ヨシ
〃　沢口　五作
〃　清水　ミヤ
〃　茂野　寅一
〃　樋口　深雪
〃　小林惣治郎
〃　三領
〃　高橋　カク
〃　高橋キクノ
〃　小根岸
〃　小海　アヤ
〃　小海菊太郎
〃　小海　ノヤ

橋地区　十六人

木落　羽鳥　テフ
〃　相馬　ハル
〃　清水　シゲ
〃　辛高津　ケン
〃　戸田　彰平
〃　秦野　寅蔵
〃　木村　イセ
〃　金崎　ミキ
〃　野沢　オキ
〃　村越　イエ

仙田地区　十六人

野口　五十風トラ
〃　滋野　セツ
原田　丸山　英一
根深　丸山　幸作
〃　片桐チトエ
〃　藤田　清常
中仙田　小林　正治
〃　高橋　文蔵
〃　佐藤　梅作
室島　増田　アヤ
小脇　斎木　ヤス
〃　佐藤　丑松
〃　佐藤ミヨリ
赤谷　高橋　タニ
〃　高橋ヨシノ
岩瀬　登坂　三四
〃　中条　チエ
〃　保坂菊太郎
大白倉　大野　良
〃　桐生ミサヲ
小白倉　大橋　トヤ
〃　江口　斉

就任一年目の記念日に
金子知事が来町

川西ダムで説明を受ける金子知事（中央）
案内役の上村県議（右）と南雲町長

六月四日、金子清県知事が、郡内三町村を行政視察するため、川西町を訪れました。

知事は、川西ダムで土地改良区関係者の出迎えを受け、ダムの克雪用水の利用や、集中管理構想などの説明を受けました。

その後、役場庁舎で議会議員、各界の代表、町職員らの歓迎を受け、約三十分にわたり懇談しました。

「知事に就任して一年という記念すべき日に、第一歩を川西町にお迎えできたことは、大変喜ばしく光栄です。」と町民を代表して、町長があいさつしました。

知事は、川西町を含む中山間地域の農業情勢問題、リゾート地域の整備の問題、北越北線の高速化や道路網の整備などについて触れられました。

「市町村のプロジェクト推進について、いろいろの面でお手伝いできる点もあろうかと思う。地域の動きを頭に置いて、県としてもできるだけのお手伝いをさせていただきたいと思っている。

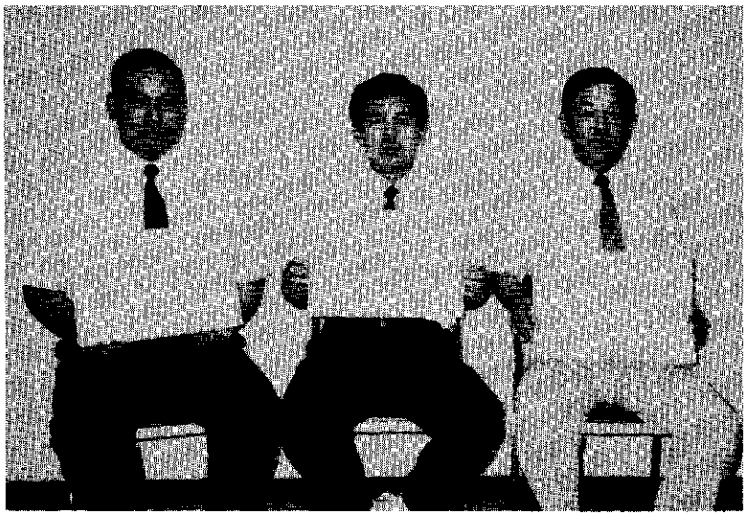
また、川西町のいくつかの計画も、県としても要望に沿うよう努力してまいりたい。

今後、皆様から県政に対するご理解ご協力をお願いしたい。」とあいさつされました。

老人保健施設の問題、優良米奨励に対する問題、道路改良に対する問題、児童数減少に対する対応策など、町の抱えるいくつかの問題について質疑がありました。

わずか三十分という限られた時間でしたが、知事の姿勢をお答えいただきました。

スポーツ振興に尽力
体育指導委員功労者表彰



右から、表彰された小林さん、北村さん、藤巻さん

六月二十三日、三条市で第二十九回新潟県体育指導委員大会が開かれました。席上、中仙田の小林一也さん（46）、中央町の北村良二さん（36）、塩辛の藤巻義明さん（32）が、体育指導委員功労者表彰を受賞されました。

小林さんは、町体育指導委員の会長・副会長を歴任され、地区スポーツクラブの育成・指導に貢献されたことが認められたものです。

北村さんは、現在、町体育指導委員の会長を勤めており、体育指導委員の指導・助言など、会の統制に努力されたことが認められたものです。

藤巻さんは、町社会体育事業の企画・立案などに尽力され、社会体育の振興に寄与されたことが認められたものです。

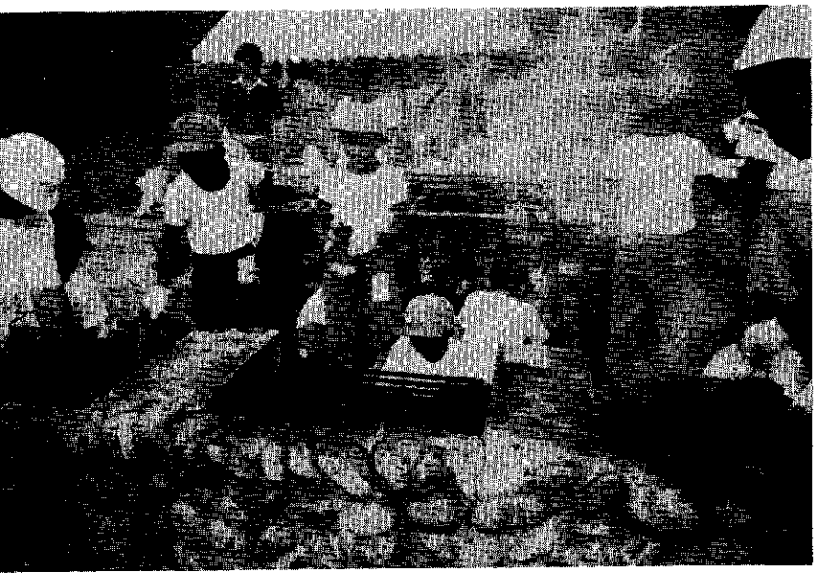
集まれ　都会っ子

仙田郷子ども村開設

山村留学（短期）のご案内

夏休みを利用して、都会のこどもたちに「自然体験」の場を提供し、合わせて地元の子どもたちとの交流を深めたいと願っています。

この企画は、財育てる会の協力を得て、無人となった藤沢の廃屋で、力を合わせて原始的な生活体験をするなど、多分にミステリアスで冒険心をそそる内容を織り込んでいます。



マキを燃やして、飯ごうでごはん炊き
自然の中での食事は格別です。

（元．8.12　銀山平キャンプ場スポーツ少年団）

＊活動期間
8月19日(日)～24日(金)

＊活動場所　川西町仙田地区

＊対 象 者　30人
小学校3年生～中学校3年生

＊参 加 費
（交通費・滞在費・指導費・保険料など、必要経費含む）
上野駅集合・解散
小学生　26,000円
中学生　22,000円
長岡駅集合・解散
小・中学生　20,000円
現地集合・解散
小・中学生　19,000円

＊参加者全員に、記念品としてチロリアンハットと、オリジナルTシャツをプレゼントします。

申し込み・問い合わせ　川西町教育委員会へ　☎0257－68－2167

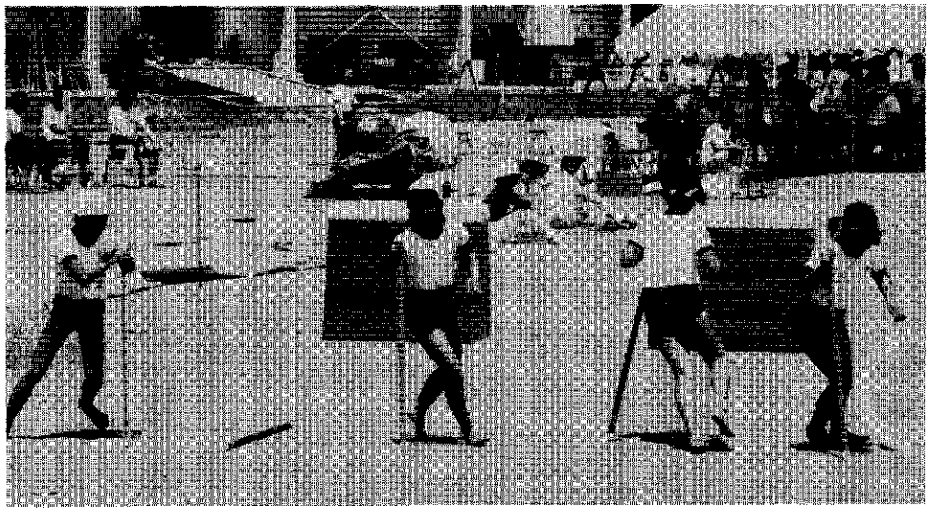
運動会のそろいぶみ

六月三日、各小学校で一斉に運動会が実施されました。町内五校の小学校全部が、同じ日にそろって運動会を実施するということは、今までになかったことです。

声をからして応援する父兄、ビデオカメラで勇姿を収める父親……。わが子の出る種目はとかく過熱ぎみとなるのは、どこでも同じようでした。

はりきりすぎて、体調のくずれた方はいませんか？

千手小，１、２年生の「紅白玉入れ」。
あんまり高くないのに、思っていたより入らないよ〜。



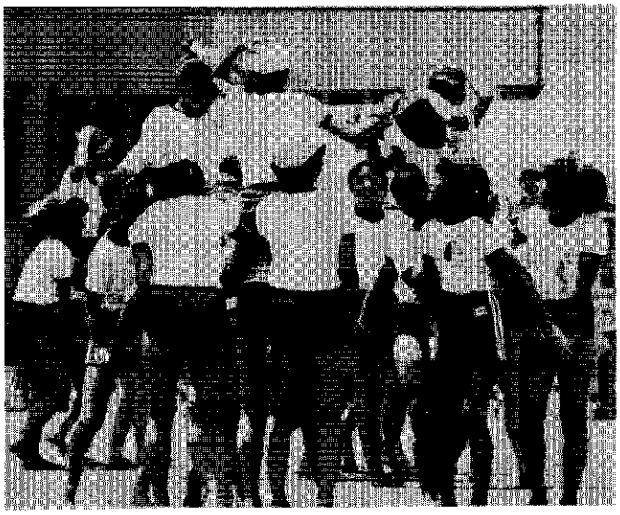
上野小、五・六年生の「運も実力のうち、実力も運のうち」。目が回って、次の平均台がうまく渡れるかナ。

仙田小、一〜三年生の「かわいいさかなやさん」前掛けして、長ぐつはいて、次は魚を仕入れなくっちゃ。

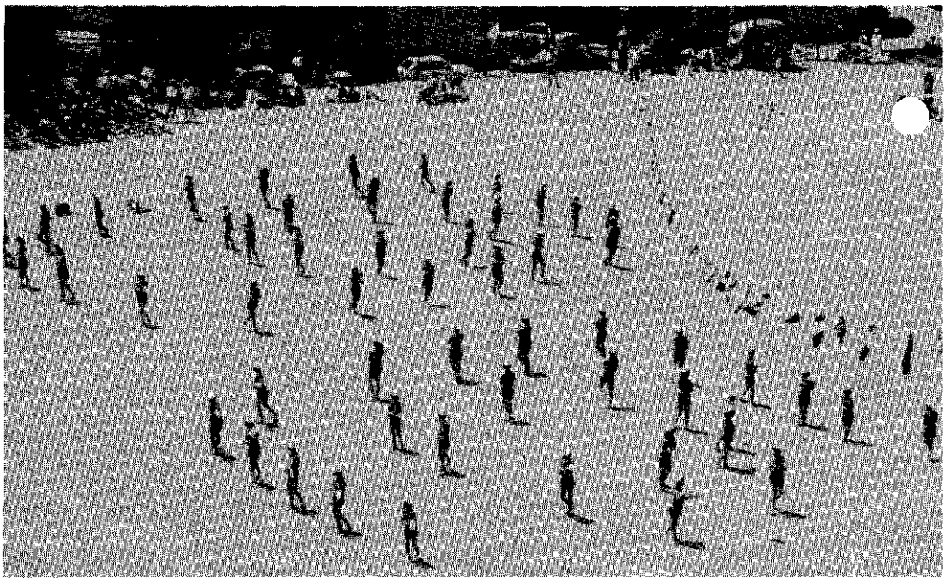
橘小、一〜三年生の「紅白玉入れ」。ずるいぞそんなにカゴが動いては、玉がうまく入らないよ〜。

白倉小，老人会の「豆拾い競争」。
気持ちと手がちぐはぐで、どうして
こんなにうまくいかないんでしょ。

橋小，4～6年生の「組体操」。 上に乗るのも不安だし、下で支えるのも楽ではないもんだ。

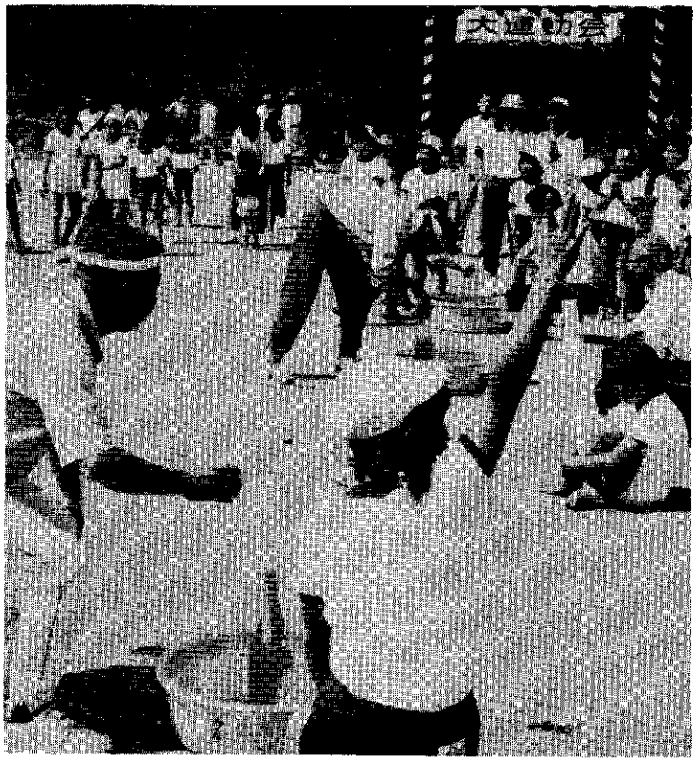


上野小，4～6年生の「騎馬戦」。
女の子だって必死です。自分の組が勝つためだったら、男の子にだって負けません。



千手小，3・4年生の「旗の花」。上から見ると本当に花が咲いているみたい。応援していた人たちにはどんなふうに見えましたか。

白倉小，一般の「紅白玉入れ」。 私たちも児童に負けてはいられません。頑張らないと、あっちが先にいっぱいになる―。



仙田小，祖父母の「水くみリレー」。日ごろの運動不足もなんのその、こっちが先にいっぱいになったよ～。

歴史は語る <40>

ある青年会の記録 ⑥

岩瀬 金子幸作

赤岩校に祝砲あがる

明治四十四年（一九一一）四月十九日、仙田連合青年会の総会が赤岩校で開かれる。小白倉からは十四名の代表が参加、全村の出席者は二百名を超える。

春祭りのこの日、赤岩校区はオッタテ山（赤谷と岩瀬の境にあった峰）で祝砲五発を打ち上げ、花火師も万歳を叫んで谷じゅうの青年衆を歓迎する。総会は、全員入場　最敬礼　御真影の開扉　君ケ代二唱　戊申詔書奉読（村長）最敬礼　御真影の閉扉　休憩　協議　事業報告　来賓及び会員演説、の順序で円滑に進行する。

模範青年をめざす

協議事項は、連合会費を、一人金弐円とする。全会員に貯金を奨励する。おけ流し（取り入れの終わった時期、若い衆が民家を借り切って、寝食を共にした。）を廃止する。青年会の名誉を保全し、会員の文明的人格を完備する。地方自治団体の模範青年となるように行動する。徴兵適令者は特に夜学会に参加する。の六項目で、会費を壱円に減じたほかは原案どおり議決する。

各会の事業報告で、小白倉は江口進三君が次の発表を行う。

本会ハ藁細工ノ講習、夜学会ヘノ参加、貯金ノ実行ヲ柱トスル。貯金ハ会員ガ共同作業シテ行フ。土方トカ、山師ノ材木運搬トカ、名月ヲ利用シテ人夫トナリ、其賃金ヲ貯金ニ充テ、自今金弐拾円余ノ貯金高ヲ有ス。

夜学補助廃止に騒然

四拾五年四月弐拾八日、仙田連合青年会ノ総会ヲ白倉校ニ於テ開催ス。出席者弐百余名、会長（村長）事故ノ為欠席シ、代理トシテ中条庄吉助役出席ス。

午前拾時開会、直ニ議事ニ移ル。注目スベキ議件ハ、夜学会ヘノ村支出金ト、本会々費ノ納入額ニ就テ、ノ弐件ナリ。

中条庄吉氏議長席ニ着クヤ、「質問」ノ声ハ、先ヅ小白倉ノ田中勝平君ヨリ起リヌ。曰ク、「青年夜学会ハ重要ナ問題ニシテ、本青年会ガ今日ノ盛況ヲ見ルニ至レシハ、各部落ニ夜学会ナルモノヲ設ケ、旧習ヲ破リ、新世紀文明ヲ会員一般ニ普及セシ効ニ依ルモノト信ズ。村当局モ、青年教育ハ村治ノ根本ナルヲ知リ、夜学ノ教授費ハ村ヨリ補充致ス事ニ決定セシカバ、青年ハ益々勉励シテ愈々其効果ヲ現サントスル時ニ至リ、突然是ガ廃止ヲナセシハ甚ダ其意ヲ得ザル事ナリ。社会ノ時勢ヨリ見レバ、是ヨリ益々補助費ヲ増額ナス可キニ、当局者ハ比較的無益ノモノニ補助ヲナシテ夜学会ヲ軽ンジ……（以下略）」。

田中君、村長をなじる

議長ハ、「夜学会ノ補助費ハ村会ノ決議ニ依ルモノナレバ、会長ノ如何トモスル能ハザルナリ云々…」。田中君ハ再ビ起チテ曰ク、「連合青年会長ハ即チ仙田村長ナレバ、一村会ニテ若シ是ガ否決ヲナス様ナ事アレバ大ニ弁論スベキニ、未ダ是ヲ主張セシヲ聞カズ、甚ダ無責任、誠ニ不親切ノ至リナリ」ト詰リシカド、助役ハ会長ノ代理ナレバ事決セズ、来年度ノ村会ニ再度ノ提出ヲ約シテ次ニ移ル。

会費の減額で紛糾

議長、連合会費支出方法ノ議題ヲ提案スルヤ、非難ノ声ハ赤谷ノ長谷川政吉君ヨリ出ヅ。曰ク、「本件ハ事重大ニシテ、殊ニ会長ノ責任ニ係ル事ナレバ、会長欠席ニテハ議スル能ハズ」ト云哉、一方ニテハ、「例ヘ会長欠席スルト雖モ、助役ガ代理ニテ出席シタル上ハ議スルニ差支ナシ、重大問題ナレバ猶更本会ニテ決議セザレバ議スルノ時ヲ得ズ」ト論ス。

喧々囂々、会場弥々騒乱ナラントスルヤ、小白倉青年会ハ、「会長ノ責任ニカカリ、又、来賓ニ対シテモ無礼ノ事ナレバ、休会トシ、別室ニテ委員会ヲ開キ決議セラレタシ」ト謀リシカバ、一同之ニ賛シテ休会ス。来賓並ビニ会員ニ昼食ヲ呈ス。

約束に背く会長

昼食後、三教室ニテ委員会ヲ開ク。本会ニテハ田中勝平、田中貢ノ二君ガ会ニ列ス。

委員会ニ於テ議スル内容ハ、昨年、赤岩校ニテノ第二回総会開催時ニ遡ル。一般会員ハ一人ニ対スル年会費トシテ金弐銭ヲ主張セシモ、会長ハ一人壱銭ヲ主張シテ曰ク、「若シ一人壱銭ニテ不足ヲ生ゼシ時ハ、自分ガ責任ヲ負テ不足額ヲ仕弁スル」ト約セシ処、果セル哉弐円何銭ノ不足ヲ生ズ。赤谷、岩瀬ノ両会長ハ之ヲ樋口清松君ノ手ヲ経テ村会長ニ請求セシカドモ、会長ハ事ヲ左右ニ詫シテ、一年余ヲ経過セシ今日ト雖モ未ダニ仕弁セズ。右ノ不足額ハ如何ニシテ宜敷ヤト云フ事ナリ。

会の存亡かけて激論

長谷川政吉君曰ク、「会長ニシテカク不徳ノ行為ヲナシ居リテハ、本会有ッテ社会ノ人心ヲ険悪ナラシムルノ恐レアリ、此ノ際連合会ヲ解散シテハ如何」

田中勝平君曰ク、「然ラズ、連合青年会ハ一日モ欠ク可ラザル団体ナリ、会ノ名誉ヲ失墜セシ会長ヲ廃シテ新会長ヲ選任スルガ急務ナリ」ト論ジ、両説共ニ賛否ノ意見百出シテ決セズ。

赤谷高橋政治君ノ仲裁説ニ依リ、後日之ヲ会長会議ニ譲ル事ニ決シ閉会。小海正平仙田校長ノ有益ナ講演有リテ感銘ス。頗ル盛会ヲ極メ、午後三時散会。

昭和三十一年当時の赤岩校
（中央町丸山益平さん撮影）

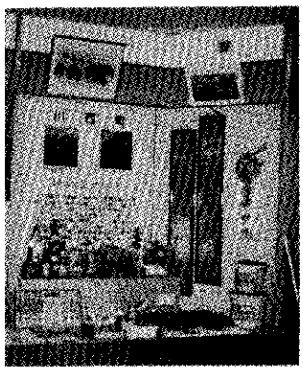
にいがたで 町の自慢 売り込む

六月十四日から十九日までの六日間、新潟伊勢丹で「にいがたのふる里展」が開かれました。

ことしで五回目となるこの催しは、農山村の良さを都市の人々に紹介し、交流を深めようとするものです。

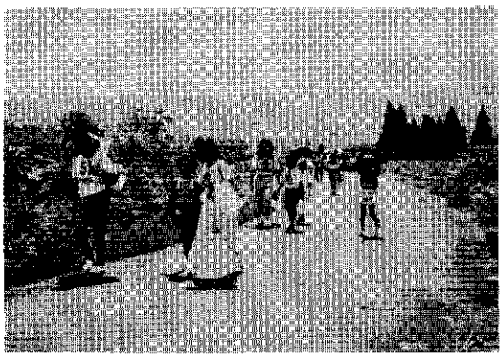
六階の会場では、市町村の魅力を紹介したパネル展示、特産品の展示即売、民芸品の製作実演、郷土芸能が披露されました。来場者は、いながらにして県下全域の「ふるさと」に接し、各地の特産品などを買い求めていました。

川西町からは、「ふれあいの里かわにし」のパネルやわら細工、壁掛けの展示、そば、地酒、野沢菜漬け、クルミようかんを販売しました。



町の特産品などが飾られました（6・14）

歩いてリフレッシュ 健康ウォーク



「どのくらい歩いた～」。「半分くらいかな」

六月十七日、千手地区の歩け歩け健康ウォークが開かれました。

出発間際までの雨が、役員方を心配させました。しかし、熱意が大に通じたのか、七時ころから天候が回復し、絶好のハイキングびよりとなりました。

この催しは、千手地区体育振興会（市川松男会長）が、地域、親子のふれあいと、健康づくりを目的に毎年実施しているもので、ことしで十回目となりました。

総合センターを出発点に、千手西の山地域の農道・林道をとおり松葉荘の展望台に至る一二キロコースと、坪山交差点から霜条を通過する八キロコースの二つが用意されました。

体力に応じて参加できる催しに、ことしは例年の二割も多い四百人ほどが参加しました。

若い親子連れの多いなか、年輩の女性のグループや親子三代という参加者も見られました。

午前十一時半には、ほとんどの参加者がゴールし、主催者の用意した豚汁に、ご近所の方と、友達や親子でと、楽しい昼食のひとときを過ごしました。

生涯学習シリーズ（2）

≪生涯学習社会をつくる①≫

前回は、生涯学習時代の到来ということでお話をさせていただきました。

人は、自己現実（完成された人間を目指す）に向かって、生涯学び続けることが大切です。しかし、現実には、そのような意識や学習システムも希薄で十分とはいえません。

そこで、生涯学習の推進に向けた学習社会の形成が望まれているのです。

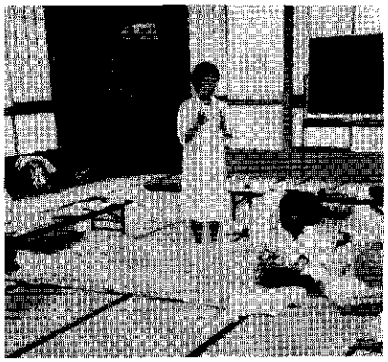
「だれでもが、いつでも、どこでも学びたい方法で学べる社会」になることが、生涯学習社会の姿です。

このような社会をつくるため、国はもちろん、地方公共団体でも住民の文化や学習、スポーツの活動を援助する方向性が選択されだしてきました。そして、住民の心の豊かさづくりを援助し、学習社会の拡大を図ってきています。

新潟県では、二十一世紀に向け「うるおいと活力のある県づくり」を目指し、五つの重点施策を掲げています。

そのトップに、地域づくりは人づくりとして、すこやかで創造力あふれる人材の育成を目指し、「教育・文化・スポーツの振興」をあげ、生涯学習のための施設整備が進められています。

また、いろいろな市町村でも、人間が学ぶことと生きることが連結し、学習活動とまちづくりが積極的に進められています。



家庭看護教室（元．9．13）

町でも、「うるおいのある豊かで活力のある町づくり」が進められています。町民憲章にある、『香りゆかしい文化の町』を目指した生涯学習社会をつくっていくことが、大きな課題といえるでしょう。

ことしも咲いた

友情の輪

六月三日、庚塚野球場で中学校親善野球大会が開かれました。

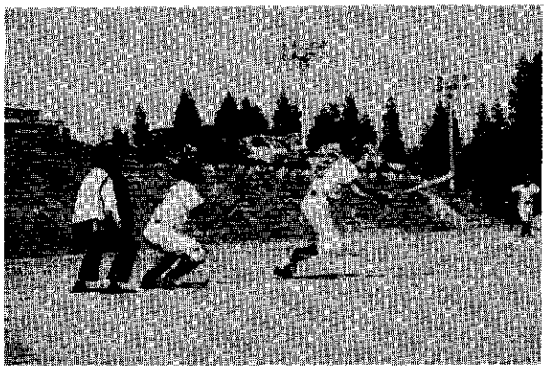
この大会は、去年、庚塚運動場の開設十周年記念事業として、町野球協会（星名秀利会長）の主催で宮内中（長岡市）、十日町中（十日町市）を招待して実施されたのがきっかけです。

今回で二回目を迎えたこの大会は、前回に勝るとも劣らない強豪見附中（見附市）が対戦相手。川西中主将の南雲武幸君が選手宣誓をして試合が開始されました。

第一試合は一対一の引き分け。第二試合も零対零の引き分け。予断を許さぬ一進一退の攻防に、観戦された方々も、暑さも忘れて熱心な声援を贈っていました。

技術の向上と、親睦を図ることをねらったこの大会は、ことしも成功裡に終わりました。

この友情の輪は、来年から再来年へ、先輩から後輩へと引き継がれていくことでしょう。裏方でお骨折りをいただいた皆さん、ご苦労様でした。



川中先取点か…

夏の交通安全運動

期間 7月21日(土)～8月20日(月)

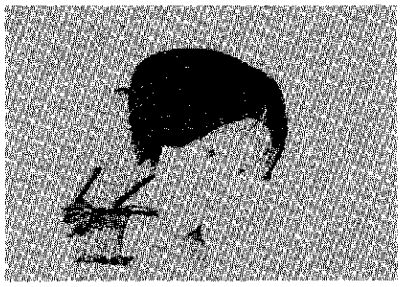
気をつけて いねむりスピード 気のゆるみ

ちいさな展覧会

〈川西中学校〉

24

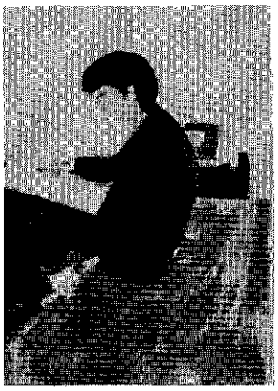
2年 松本 恵理子さん



2年 大平 真紀さん

2年 高橋 五月さん

2年 田辺 紀子さん



2年 蔵品 芳一君

2年 野上 朋美さん

2年 小川 智和君

（8月号は千手小学校です）

図書室だより

読み聞かせの効用

子どもは、本の読み聞かせやお話を喜びます。それは、人間として本能的なものともいえるでしょう。

一つのお話に、一緒に笑ったり、悲しんだり、子どもの心が親の心の糸を震わせ、震えた心がまた糸を伝わって、子どもの心に入っていくのです。

このように、読み聞かせは、親と子の心のスキンシップであり、子どもと心を通わせることになるのです。

よくテレビに子守りをさせないで、といわれます。テレビは一方通行ですし、ことばの獲得にもあまり効果がないのです。読み聞かせのコツは、子どもの反応を受けとめながら、対話をするように進めることです。

お話は、子どもの空想力を刺激して、見えないものを見えるようにする力をつけてくれたり、思考力も養ってくれます。

また、お話を通じて、心を楽しませることによって、何か新しいことをやってみようとする気持ちも育ててくれます。

ことし、町では昔話を一冊にした本が発刊されました。また、有線を通じて毎週昔話が語られています。

「きよの絵本劇場」（主催・青少年育成町民会議）の企画も、親子で絵本のすばらしさを共感しあえる絶好の機会です。

子どもたちの、健全育成につながるものとして喜ばしいことです。

善意

（敬称略）

一般寄付

櫃間道夫（伊　友）　十万円

社会福祉に

野沢淑江（小千谷市）　十万円
清水久美（下平新田）　十万円

広報発行に

岡村ふじ江（沼田市）　二万円
星名　キミ（港　区）　一万円
押木　三平（船橋市）　一万円

停電のお知らせ

7月23日（月）午前9時半～正午
元町の一部

7月25日（水）午前9時半～正午
四郎兼の一部
東善寺の一部

平成3年度 町職員募集

- 一般事務　初級2人
  上級1人
- 保健婦　1人
- 採用試験申し込み受け付け 8月13日～9月10日
- 採用試験実施要項など詳しくは、本紙8月号でお知らせします。

はいけい　ふるさと　さん

母と川西町

小千谷市 野沢淑江さん
（中島町出身）

前略　永い間、お世話になりました母西方ナツが、五月一日心不全で亡くなりましたので、生前のお礼をと思い、ペンをとりました。

亡母は「広報かわにし」が手元に届くのを毎月楽しみにしていました。ものを読むのが好きで、白内障の手術をしてからも亡くなるまで、新聞や週刊誌など読んでいました。母にとって「広報かわにし」は、何よりも楽しみになっていました。

「戸籍の窓から」に知人の名前があると「同級生だった」とか、「どこそこの人なのに」と昔のことをよく覚えていて聞かせてくれました。

この「広報かわにし」をいつも送ってくださった役場の方にも、心からお礼申し上げます。これからは、私が読み続けたいと思います。よろしくお願いいたします。

母は、明治三十八年霜条に生まれました。娘時代に東京に出て結婚。私たち六人兄妹は亀戸で生まれました。ところが、終戦後の困難な時期を霜条で疎開生活を過ごしました。その後も永い間、千手に居ましたので、川西町の皆様には大変お世話になりました。

年老いてから、私の子供の子守りに小千谷へ来てもらいました。今日まで私が、仕事を続けてこられたのも、母のおかげでした。

小千谷市にも、川西町出身の方が多く「川西会」というのがあります。現在一七〇人以上の会員がいらっしゃいます。年に何回かは集まって、出身地を懐かしみ交友を深めている次第です。数年前には、松葉荘にも寄せていただきました。

川西町は、私が在住していたころとはすっかり変わり、発展しました。これからもますます住みよい町でありますよう、お祈りいたします。

私も、川西町には大変お世話になりました。この機会にと思いまして送金させていただきました。老人福祉とか、身障者、「なかまの家」などのお役に立てば幸いに思います。　かしこ

戸籍の窓から

うぶ声―おすこやかに

小林　薫　隆　長男　神社町
増田　隼人　利昭　秋実　二男　室島
中條　和成　一芳　さち子　長男　岩瀬
酒井　晴基　松平　チドリ　三男　栄町
南雲　斎　浩　要子　二男　寺尾
太田　渉　克之　陽子　長男　田中
櫃間　香帆　茂佳　祥子　長女　伊友
丸山奈都美　一弘　和枝　二女　原田
清水　剛　克也　ひろみ　二男　下平新田

たかさご―ご円満に

（小島　了一　新町新田
宮嶋　伸子　水原町から
（伊藤　学　長岡市から
小林　ひとみ　中屋敷

昇天―ごめい福を祈る

相馬善太郎66（本人）木落
齋木　真平77（本人）小脇
櫃間　富平83（本人）伊友

かわにし俳壇

太田白南風選

○起き抜けに家一巡り朝涼し
葉たばこにテープを張りて梅雨迎ふ　高倉　齋木　和人

○八海へ真直にある青田道
ござあとの肘にのこりて昼寝覚　足立区　駒形　頼太

○この村の家皆大き夕螢
飛んでいる螢の闇を叩きけり　霜条　星名　星光

○測量の赤きポールや青嵐
子つばめの巣立確かめ雨戸ひく　岩瀬　登坂伊智子

○追いかけて行く子に螢高くとび
虹の色川に写して夕焼けす　大倉　中条　石平

○老鶯のつづら折りなる登山道
菖蒲湯の匂いのなかに孫と在り　小脇　佐藤　信一

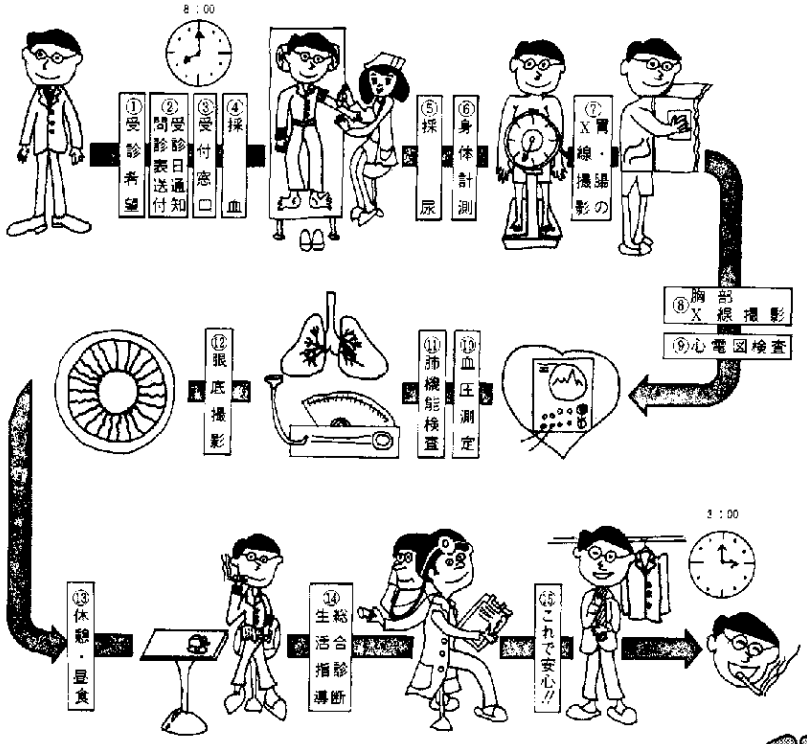
三山の終日かくれ梅雨に入る　小白倉　田中　優美
髪ながき巫女の真白きひとえ足袋　野口　野沢　寅生
風鈴の土産賜り夏に入る　小白倉　江口みゆき
紫陽花の青深まりて梅雨さ中　中仙田　高橋　杉枝
夏ぐみのたわわに垂れて活けられし　岩瀬　小川　益栄
菖蒲咲く周り明るく梅雨の空　野口　村越　幸
から梅雨の中天高く飛行雲　浦和市　登坂　博史
砕石の音のみ高し夏の川　上野　内山　寛平
よみがえる螢にしばし立ち止り　沖立　柄沢　悌二
段丘の森闇を抱き螢とぶ　学校町　柳　藤作
銭入れて動く遊具や梅雨の空　伊勢原市　金子　桂吉

大木の銀杏若葉の甲州路　八王子市　松浦　サク
打つ点字微妙に変る梅雨じめり　中屋敷　数藤　壮一
歌の窓開けて五月の保育園　元町　金子　鉄平
郭公を聞かず裏山杉太る　上町　高橋　願似
石垣を埋め紅白の芝ざくら　発電所通り　春日　ぶん
初蟬や見上ぐる梢深々と　中仙田　南　川子
一望の青田の原に風わたる　木落　丸山鉄四郎
一病を持ちて息災梅雨晴る、　中仙田　高野仙蒼子
満々と水をたたえし植田かな　八王子市　田中　ひさ
長良川遊びの鮎の屋形船　練馬区　須藤　遊人
橋脚に水位の跡の出水引く　赤谷　登坂　酔月

あなたのために　家族のために

町では、四十歳から七十歳に達する町民の方に、一日ドックの半額助成制度があります。
あなたも「一日人間ドック」を受けてみませんか。

●申し込みは、役場保健衛生課国保係まで
☎六八―三一一一
有線　二一四二



くらしとけんこう